

GJ

The
Great Japanese
Dictionary

講談社カラー版

日本語

The Great Japanese Dictionary

大辞典

第二版

Second Edition



日野原重明

監修

Kodansha

講談社 カラー版

日本語大辞典 第二版

発行 一九八九年一月六日 初版発行

一九九五年七月三日 第二版第一刷発行

監修 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明

発行者 野間 佐和子

発行所 株式会社 講談社



〒一一二〇一 東京都文京区音羽二一一二二

電話 編集部 〇三―三二六五―九二二一

販売部 〇三―五三九五―三六二四

製作部 〇三―五三九五―三六一五

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 大日製本印刷株式会社

●定価はケースに表示してあります。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。

送料小社負担にておとりかえいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、

小社辞典局あてにお願いいたします。

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、
禁じられています。

©KODANSHA 1995 Printed in Japan

N.D.C. 813 2638p 27cm

ISBN4-06-125002-7 (辞)

序 (第二版)

この辞典の初版を世に送ってから、早くも七年近くが経過した。その間世界情勢は東西ドイツの統一、社会主義国の盟主であったソビエト連邦の崩壊など、大きく様変わりをした。この辞典は現代日本語を扱うとともに、百科事典的事項を多数収録したことをその特色としている。このため、そうした世界の変化に合わせて、いまその内容の大改新を試みた。また、日本語の辞典と名乗る以上、日本語を勉強する外国人の読者が多いことを考え、日本語の語彙についても、現代語としてのより分かりやすい語義とあわせ慣用的な用例の充実をはかり、さらに基本的で重要な語については、その説明に新たな工夫を加え、豊富な内容と精密な情報を付加した。

今ここに改訂第二版を刊行するにあたり、ご援助を賜った諸賢とさまざまなご指摘をいただいた愛読者の皆様に、衷心より御礼を申し上げる次第である。またあわせて今後とも皆様からのご注意・ご希望の寄せられることを期待するものである。

平成七年七月

監修者一同

序 (初版)

いま、世界の各国で日本語を勉強しようという人々は年々急速にふえてきて、その数は三百万をこえている。これが、今世紀末にはアジア・太平洋地域だけでも一千万人に達するだろうという。これまで、この島国の仲間うちだけで通用することばとして、比較的無反省にすごしてきたわれわれの母語に対して、あらためて、世界に開かれた言語として今後どうあるべきかを、深く考えてみなければならないときがきているようである。

一方、日常の言語生活でも、たとえばワープロの普及によって、われわれの「かく」という行為にいちじるしい変化が生じつつある。「よむ」ことはできても、自身ペンをもって「かく」ことのできない漢字が、あたらしい世代の人々にはどんどんふえていく傾向にある。それで果たして本当にその漢字、あるいは語の意味をしっていると見えるかが問題であるし、すくなくとも、あらかじめ用意された語句だけを使って文章を書く安易さになれた人々に、あたらしい表現の創造を期待することはむずかしいことになるだろう。すでに現在、はなはだセンスに欠けた新語や、必然性のないカタカナ語がむやみに氾濫しつつある。その中のどれが真に時代の要請に応じうる、必然性をもった新語・カタカナ語であるか、どれが単なる根無し草的流行語であるかを判断する能力を、われわれ一人一人がもたなければならなくなっている。

現代の辞典は、単に日本語の現状を記録し解説するだけではなく、国際化のすすむなかでの日本語の将来を考え、また、高度に情報化された現代社会における情報処理の能率という点までもも考案するための、材料を提供するものでなくてはならない。しかし、同時に言語は歴史的なものである。現代の日本語も、過去の日本語なしにはありえない。日本語の現状は、日本語の過去をすることによって、より正確に、より豊かに理解しうるし、また、

それが将来の日本語を考えるうえでの大きな手がかりともなるであろう。

本辞典は現代語を中心にし、それも単にことばの解釈だけではなく、ことばの解説をも含めて、いわゆる「事典」的な性格をも加味したものである。あわせて、右のような意味から、ある程度の古語をもとりいれた。時代の先端を行く専門領域の用語の解説と、古典に用いられている文学用語の解釈とが、同じ一冊の辞典に共存するというのは、やや混雑した感じを与えるかもしれない。しかし、これはむしろ現代の日本社会の実情の反映でもあって、その要求に広く応じようとするからなのである。この種の辞典としては初めての、カラーによる図版や写真六千余点を挿入し、ことばによる抽象的説明にとどめず、視覚による具体的な理解が得られるように努めたのも、こういう趣旨に基づいている。

来るべき新世紀をめざして、時代の流れを見通しつつ、その要請にこたえる辞典づくりを心がけた編者の意図を汲みとっていただければ幸いである。

平成元年六月

監修

国立民族学博物館長
理学博士

梅 棹 忠 夫

前上智大学教授
文学博士

金 田 一 春 彦

京都大学名誉教授
文学博士

阪 倉 篤 義

聖路加看護大学長
医学博士

日 野 原 重 明

(五十音順)

凡例 はんれい 特色と使い方

この辞典の特色

一 あらゆる疑問にこたえる「日本語」辞典

この辞典は、日常身近に接する「ことば」と「用語・事項名」の二〇万語余を、引きやすく、読みやすく解説したものです。

「ことば」の項目は、現代語を重視して、日常生活にまた中学・高校の学習に、必要な内容を収めました。

「用語・事項名」の項目は、あらゆる分野の専門用語から、人名・地名・作品名などの固有名詞にまでおよんでいます。

二 現代語を大切にしたり分かりやすい記述と役に立つ用例

解説はだれにも分かる表現で簡潔・平明にしました。「ことば」の項目は、現代語の慣用例をできる限り採録し、用法の理解や文章の作成に役立つよう配慮しました。さらに、必要な語には、同義語・類似表現・対義語などを多数示し、ことばを多角的に理解できるようにしました。

三 故事・ことわざ・慣用句を豊富に収録

故事・ことわざ・慣用句など約九〇〇〇と、そのうえに必要な十分な量の古語とを収録しました。これは、古来伝えられてきた祖先の言語表現をしり、理解することによって、豊かな言語生活の糧となることを願ったものです。

四 漢字辞典としても使える「JISコード」付き漢字項目

日本語の造語成分としても大切な漢字一万字余を採り上げ、文字の意味と熟語例を示しました。

すべての教育漢字に筆順を付けて、おろそかにされがちな正しい書法理解の一助としました。

ワープロ時代に即応して、JIS第一・第二水準の文字はすべて採録、さらにJIS補助漢字のうちから三九〇〇字余を精選収録し、それぞれにJIS区点コードを付けました。

ドを付けました。

巻頭の「漢字音訓一覧」では、本文に収めたすべての漢字を画数・部首の順に配列し、音訓と難読の熟字訓・当て字などの読み方を示しました。これにより、読めない漢字からも引くことができ、漢字辞典としても使えるようになっていきます。

五 国際化時代に即した英語情報

古語などを除き、それぞれの語釈の末尾にできる限りその意味にあたる英語を付けました。この一二万語におよぶ英語は、軽便な和英辞典としての役割をもつばかりでなく、日本語の語義の微妙な違いを理解する一助となるものです。

六 辞典で初めてのフルカラーによる写真と図解

一枚のカラー写真は、膨大な量の文字情報に相当するといわれます。本辞典では、六五〇〇点を超える写真と図解をすべてカラーで収録しました。とくに動物・植物は、専門の図鑑にも匹敵するものです。さらに図解では、部分名称・用語などを詳細に添え、図と文字との両面から、より理解を深める助けとなるようにしました。

七 「書く」「話す」「使いこなす」ための実用情報をまとめた特集ページ

日常生活に実際に役立つように、特集を設けました。手紙、はがきの文例、スピーチ例、敬語の使い方などを豊富に採録し、暮らしに欠かせない実際的なことばの使い方をテーマ別に示しました。

さらに、『色名辞典』の項では、日本古来の伝統色を中心に三五〇色を再現し、そのすべてに名称の由来などにかかわる解説を添えました。

『日本の伝統文様』の項では、各文様に最適な写真をそろえ、ことばの意味と実際の形とを明確に示しました。

『アルファベット略語集』の項では、アルファベットの略語約三六〇〇を厳選収録し、簡潔な日本語訳を載せました。

この辞典の使い方

見出し

一 見出しの仮名遣い

- 1 見出しには、平仮名と片仮名を用いています。
片仮名の見出しは、外来語、アイヌ語および語をつくる成分としてとりあげた漢字の音などです。
平仮名の見出しは、和語、漢語などです。
- 2 見出しは、現代仮名遣いで表示しました。
- 3 仮名遣いのわかりにくい語、たとえば「ずくし」か「づくし」かなどという場合は、両者の見出しを立て、矢印で説明のあるところを示しました。
ずくし【尽くし】(接尾) ↓づくし(尽くし)
- 4 もっとも基礎的と思われる語を約一三〇〇語選び、見出しを大きな文字で示しました。

かならず「必ず」

二 歴史的仮名遣い

- 1 和語は、現代仮名遣いで示した見出しと歴史的仮名遣いが違う語に、小さく歴史的仮名遣いを入れました。
あじ【味】
にお・う【匂う】
- 2 古語で、現代仮名遣いで見出しを立てて解説しましたが、歴史的仮名遣いは、和語、字音語ともに入れました。
あいぎよう・づ・く【愛敬付く】
- 3 古語で、歴史的仮名遣いが、現代仮名遣いと著しく異なる場合、歴史的仮名遣いの見出しも立て、説明のあるところを示しました。
おほけ・なし【固題】(形ク) ↓おおけなし

三 見出しの構成

- 1 語の組み立てからみて、成分に分けられるものは、大きな分かれめに「・」を入れて、組み立てがわかるようにしました。

か・じ【火事】

こと・の・は【言の葉】

せい・ひれい【正比例】

とりい・きよのぶ【鳥居清信】

- 2 活用があつて、語幹と語尾に分けられるものは、その間に「・」を入れました。

うら・む【恨む・怨む】(五他)

くみ・い・れる【組(み)入れる】(下一他)

ただし、助動詞には入れませんでした。

させる(助動下一型)

- 3 語の組み立てを示すことができないものは、「・」を入れませんでした。

しぐれ【時雨】

また、地名・年号・梵語の漢訳語などには、「・」を入れませんでした。

いずも【出雲】

めいわ【明和】

あみだ【阿弥陀】

四 見出しにあてられる漢字表記

- 1 一般に広く用いられているものを、「」の中に示しました。表記が二つ以上ある場合は、「・」でつないで並記しました。
また、日本語および日本読みの動植物名については、必要に応じて、「」内に漢名または慣用表記を入れました。
▼ 常用漢字表にないもの。
▼ 常用漢字表の音訓外のもの。
あいさつ・にん【挨拶人】
えぼし【烏帽子】
しん・り【心裏・心裡】

五 送り仮名

六 外来語

1 送り仮名は、昭和四八年内閣告示『送り仮名の付け方』の通則に基づき、表示しました。省略の許容については、()の中に小さく示しました。

うち・あわせ^{はせ} | あ | 打(ち)合わせ・打ち合(わ)せ^{はせ}

また、多く送る許容については、左記のように示しました。

あらわす^{あらはす} | 著す・著わす^{はす}

1 外来語は、片仮名を見出しとし、その表記は平成三年国語審議会の答申に基づく内閣告示に準拠しました。

また、アルファベットの読みは、次のような表記によっています。

A	エー	B	ビー	C	シー
D	デー	E	イー	F	エフ
G	ジー	H	エイチ	I	アイ
J	ジェー	K	ケー	L	エル
M	エム	N	エヌ	O	オー
P	ピー	Q	キュー	R	アール
S	エス	T	ティー	U	ユー
V	ブイ	W	ダブリュー	X	エックス
Y	ワイ	Z	ゼット		

2 外来語の表記で、原音や原つづりになるべく近く書き表そうとするものは、一般的に用いる表記を矢印で示したり、また説明文の末尾に記しました。

ヴァイオリン^{violin} ↓ バイオリン

チーム^{team} …… ティーム。

3 外来語の原つづりは、原則としてローマ字に転写したものを、[]の中に示しました。

オペラ^{opera}

ペレストロイカ^{perestroika}

4 見出し語がアルファベットつづりの略であるもの、またはアルファベットつづりの略をふくむものは、[]の中に示し、次に()の中にその原つづりを記しました。

アイ-イー^{IE} 《Industrial engineeringの略》

エスティー-マーク^{STマーク} 《STはsafety toyの略》

5 片仮名見出しで出ているもので、和製英語であったり、日本で略したりしているものは、()の中で説明しました。

エンジンスト 《和製語。「エンジンストップ」の略》

スーパーストア 《和製語》

6 外来語などの原語の所属は、つづりの後に置き、

英 米 ツドイ フラ リア イスベ アロシ

などとししました。

何も指定しない語は、英語、固有名詞、もしくは原語不明の語です。

7 この辞典の英語は、アメリカ英語をとりました。とくに米または英とあるものは、その国でだけその意味に用いられるか、またはその国に起源をもつとされる語です。

8 中国語・朝鮮語および梵語^{ぼんご}は、それぞれ

中 朝 梵

と示し、漢字があたるものは、[]の中に示し、さらにローマ字で表記したものを()で示しました。

あらんにゃ^{阿・蘭・若} 《aranyā梵の音写。山林、の意》

キムチ^{kinchi朝}

マージャン^{麻雀中} [mǎjiāng]

品詞

見出し語の品詞等は、つぎのように表示しました。

名詞・固有名詞

表示を省略しました。

ただし、語義により品詞区分が名詞のほかにある場合は、(名)と表示しました。

(代)

(形)

(形動)

(副)

(連体)

(接続)

(感)

(助動)

(助)

(助詞)

(接頭語)

(接尾語)

動詞

五段活用

(五)

文語、四段活用

(四)

上一段活用

(上一)

文語、上二段活用

(上二)

下一段活用

(下一)

文語、下二段活用

(下二)

カ行変格活用

(カ変)

サ行変格活用

(サ変)

文語、ナ行変格活用

(ナ変)

文語、ラ行変格活用

(ラ変)

補助動詞

(補助)

文語形容詞ク活用

(形ク)

文語形容詞シク活用

(形シク)

形容動詞

ニ・ナル活用

(形動ニナル)

ト・タル活用

(形動トタル)

文語、ナリ活用

(形動ナリ)

文語、タリ活用

(形動タリ)

格助詞

(格助)

副助詞

(副助)

係助詞

(係助)

接続助詞

(接助)

終助詞

(終助)

間投助詞

(間助)

自動詞

(自)

他動詞

(他)

連語

(連語)

見出しの配列

一 見出しは、五十音順に並べました。

1 仮名の組み合わせが同じである場合は、次の順序にしました。

清音・濁音・半濁音の順

き きき ぎき ぎぎ

は は はば ばば

「つ」は、小字(促音)を先にしました。

かって かつて

さつき さつき

「や」「ゆ」「よ」は、小字(拗音)を先にしました。

いしゃ いしゃ

りよう りよう

外来語の「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」は、小字を先にしました。

ファン ファン

外来語の長音符「ー」は、直前の母音がもう一度あるものとして、それぞれの母音のあとにしました。

きい キー

じゃあく ジャーク

2 同音のことは(仮名の清濁や大小も全く同じもの)は、次に示す品詞順に並べました。

造語成分としての一字漢字

名詞(普通名詞・固有名詞・代名詞)

動詞(五段・四段・ナ変・ラ変・上一・上二・下一・下二・カ変・サ変・補助)

形容詞 形容動詞 副詞 連体詞 接続詞 感動詞 助動詞 助詞 接頭語

接尾語 助数詞 枕詞(こゝろば) 連語 句の順

3 同音で、品詞も同じことは、次の順に並べました。

和語 漢語 外来語の順

和語や外来語では、語の組み立てを示すことができないものが先

同じ音訓の漢字は、画数の順

ただし、続けて並べた方が、ことばを識別するのに役立つ場合は、この原則から

外れても、続けて並べるようにしました。

威容 偉容

志向 指向

校外 構外

- 4 項目はすべて、独立した見出し語を掲げました。複合語であっても最初の部分の語にまとめることはせず、一目でわかるようにしました。
- 5 故事・成句・ことわざの類は、句の冒頭にある語(または、句中の主要な語)の語釈のあとに、五十音順に並べました。

本文記述

一 語釈の表記

- 1 原則として、現代仮名遣いにしたがい、常用漢字を用い、現在通用している文章体で記述しました。
- 2 常用漢字表にない漢字を用いた場合は、振り仮名を付けました。

二 語釈の記述

- 1 「ことば」の項目は、現代の語義を重視し、現代の用法を主として記述しました。
- 2 事物名・専門用語等の項目は、ことばの意味を説明し、次にそれぞれの専門分野の定義を記述しました。
- 3 語釈の末尾には、同義語・別称・異名などを、必要に応じて記しました。

三 語釈中の英語

- 1 英語は、平明かつ実用的な内容を心がけ、次に示す範囲内にしました。
自立語(名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞)に、入れました。
語義が複数あるものは、語義ごとに入れました。
故事・成句・ことわざの類は、対応する類似の英語の句があるものに限り入れました。

日本語の語義に二つ以上の意味が含まれている場合や、日本語がいくつかの英語で表現でき、どれか一つに特定することが難しい場合は、二つ以上の英語を入れました。

米・英で表現が、いちじるしく異なるときは、英語の単語の末尾に小さく米または英と表示し、両者のつづりを入れました。

- 2 造語成分としての一字漢字項目、古語、動植物の種名等には、入れませんでした。

四 語釈の区分

- 1 一つの見出しのなかで、品詞がちがうときは、
□ □ □ □ ……
とし、その中の語義の小分けは、
① ② ③ ……
とし、さらにその中の小分けは、
㊦ ㊧ ㊨ ……
としました。

- 2 助詞の六分類を示すときは、品詞のちがいに準じて、
□ □ □ □ ……
で示しました。

- 3 品詞などの注記のないものは、次のことを示しています。
ことばの成分としてだけのもの。普通、造語成分とか語素とか、言われるものです。片仮名見出しの一字漢字項目に多く見られます。
名詞もしくは固有有名詞項目。一つの見出しの中で、普通名詞と固有有名詞とに意味が分かれる場合は、
□ □ □ □ ……
と区分しました。

なお百科項目で、文法的には連語とすべきものであっても、その表示にあまり必要性が認められないもの(ポイル・シャルルの法則、天正の少年遣欧使節など)には付けてありません。

五 語釈に先立つ注記

- 1 語釈の冒頭に《 》を用いて、次のような注記を必要に応じて入れました。
語源・原義等の説明。
表記・用法の注記、品詞に準ずる表示。

音便・方言等の表示。
俗語・卑語等の表示。

外国語に模して日本でつくられた語には、和製語と表示。

商品名には、商標名と表示。

故事・成句などの説明。

- 2 外国の作品名(中国・朝鮮の作品を除く)のローマ字表記を示し、原語名を注記。また、《 》を用いて、次のような注記を入れました。
外国の組織・機関名や地名・人名などの、ローマ字表記を示し、原語名を注記。

世界の国名の英語表記を、外務省編『世界の国一覧表』により注記。
人名の場合は、生没年を西暦で注記。

六 語釈に用いた記号

・は、語や名詞が並ぶときに用いました。

「」は、その語・句をとくに強調したいときに用いました。

『』は、書名等の作品名を示すときに用いました。

―は、例としてあげた語句や文の中で、見出し語に代わるものとして用いました。ただし、活用のある語については、その終止形と連体形とだけに代わるものとし、その他の活用形については、語幹を示すものとししました。

↓は、この記号の下の語を見てほしいことを、または↓国のように、図や写真があることを示しています。

Ⅱは、この記号の次にある語が、① ② ③……を通じて、意味の同じ語であることを示しています。

Ⅰは、人名以外の外来語で、長いことばの場合、その語の組み立てを示したいときに用いました。

Ⅱは、外国の人名で、姓と名との区切りなどに用いました。

（ ）は、その直前にある語句の同義語・言い換え、および簡単な説明を加えたときに用いました。

この辞典では、右記以外の記号として次のようなものを用いています。

用例 見出し語の使い方例。

類似 似た意味の語、または句。

対義 意味が反対であったり、相対したりしている語、または句。

比較 比較すること、理解に役だつ語、または句。

活用 のちがいなどで、とくに古語であることを示す必要があるもの。

参照 すること、より理解が深まる語、または句。

派生 形容詞などの派生語。

参考 語義・品詞の補足的説明。

文法的 文章語的表現であることを、とくに注意するもの。

数え方 見出し語(名詞項目)を数えるときに用いられる助数詞を示すもの。

図 もしくは表を載せているもの。

写真を載せているもの。

七 その他

1 数字は、漢数字〇一二三四五……を用いました。単位文字は万以上にしました。

ただし、慣用的に単位文字を入れて表記している語は、十・百・千を用いました。

2 単位は原則として国際単位系によりしました。

計量の単位は、メートル法を用い、次のものは略号で表示しました。

m	km	cm	mm
m ²	km ²	cm ²	mm ²
m ³	km ³	cm ³	
g	kg	cc	l
°C		kl	ml

t (船の除く)

右以外の単位は、トンやロギスのように示しました。

3 東京証券取引所「一部上場(平成七年三月三十一日現在)の会社名は、すべて収録しました。また、それぞれの語釈の冒頭に記した業種名は、証券取引所の定める「新業種分類」によりしましたが、一般の理解に資するために一部変えた名称もあります。

4 国立・公立・私立の四年制大学と国立・公立の短期大学(平成七年三月三十一日現在)は、すべて収録しました。

5 日本の地名に用いた面積・人口などは、自治省行政局編『全国市町村要覧』によりしました。

6 世界の国名・地名に用いた面積・人口などは、国際連合統計局編『世界人口年鑑』および、当該国の広報資料によりしました。

図および写真

1 動物・植物・機器・建造物・調度・服飾などに、カラーの図や写真を付け、図鑑としても役に立つものにしました。

2 絵画・彫刻・工芸品など、著名な美術品を載せて、語釈の助けとしました。

3 著しい業績を残した人物(歴史・社会・文学・自然科学など)には、肖像画や写真を載せました。

4 図解にはできるかぎり「各部の名称」を記し、必要なものには英語を付けました。

5 小学校から高等学校までの、基礎的な学習内容にかかわる組織図・体制模式図などを載せ、学習の助けとしました。

6 語釈中に、多数の事例を羅列することはやめ、表で一覧できるものにしました。

- 7 図・写真は、個別の項目ごとに載せましたが、同類のものは一つにまとめ、比較対照できるようにしました。

漢字項目

一 仮名見出し

『常用漢字表』の音を含む、よく使用されるものを、音は片仮名で、訓だけの漢字は平仮名で掲げました。

二 漢字見出し

- 1 字形をはっきりさせるため、とくに大きい活字を用いました。
- 2 常用漢字のうち、いわゆる教育漢字は、教科書体になっています。

三 漢字の解説

- 1 仮名見出しの下の数字は、その漢字の総画数です。
- 2 部首は、原則として『康熙字典』に従いました。
- 3 教育漢字の学年配当、常用漢字、人名用漢字、和製漢字の別を示しました。
- 4 〔J〕Sの下に四けたの数字は、日本工業規格『情報交換用漢字符号』に含まれる第一水準漢字二九六五字、および第二水準漢字三三九〇字の区点コード番号です。
- 5 〔編〕の下に四けたの数字は、『情報交換用漢字符号―補助漢字』として制定された五八〇一字のなかから、使用頻度により精選した三九〇〇字余の区点コード番号です。
- 6 旧字や異体字は、その項目の左下に掲げてあります。
- 7 音は片仮名で、訓は平仮名で示しました。
- 8 訓として取り出しているのは、『常用漢字表』に掲げられているものです。
- 9 太字は、『常用漢字表』に掲げられている音訓です。なお、活用語尾の送りの部分は細くなっています。
- 10 教育漢字には、筆順を示しました。

本文記述

- 1 「」で示したのは、その意味でその漢字を用いる熟語例です。
- 2 〔用〕の下にあるのは、その漢字が単独で語として使用される例で、品詞名を付してあります。

- 3 なお、〔編〕の下に示すのは、その下にある仮名見出しのところに筆順が示されていることを、また、本文記述の最後の↓は、別の仮名見出しのところに、その漢字の項目があることを示しています。

漢字音訓一覧

- 1 漢字は、類書中最大の一万余を収録しました。
- 2 教育漢字、常用漢字、人名用漢字はそれぞれ見出し漢字を色分けしました。
- 3 総画数順に並べ、同じ画数のものは部首順としました。さらに検索の便のために、「部首表」を付けています。
- 4 熟字訓・当て字・音訳など、難読語の類は、漢字の左に並べました。使い方は、「漢字音訓一覧」のページ目を参照してください。

特集

- 1 特集は『ことばのきまり』『ことばの使い方』『ことばの資料便覧』『アルファベット略語集』の四部からなります。
- 2 『ことばのきまり』では、「活用表」「送り仮名の付け方」などことばの基本的なきまりを収録しました。中学・高校の学習はもとより、一般の社会生活に十分参考となるものです。
- 3 『ことばの使い方』では、書いたり話するときの適切な例を紹介しました。「手紙の書き方」には書式の具体例、時候のあいさつ、目的別の文例を示すなどして、実際に役立つ内容になっています。
- 4 『ことばの資料便覧』では、日常の暮らしや情報媒体でよく使われることばのうちから、集積し比較することによっていつそう理解が深まるものを選び出して、一覧できるものにしました。とくに、三五〇にのぼる色を再現した「色名辞典」やカラー写真を添付して文様を紹介した「日本の伝統文様」などは、すべてビジュアル化をはかり、目でわかる資料になっています。
- 5 『アルファベット略語集』には、身のまわりにはんらんするローマ字略語のなかから、社会生活に欠かせない約三六〇〇を厳選し収録しました。それぞれに元のつづりを示し、簡潔な日本語訳を添えています。

●すべて独立項目で、五十音順に配列。

矢印で示した語に、図や写真があることを示す。

漢字項目の例

仮名見出し

●片仮名は、『常用漢字表』の音を含む、よく使用される音。

●平仮名は、訓読みだけの漢字の訓。

漢字見出し

●字形をはっきりさせるため、大きな活字。

●教育漢字は、教科書体。

●『常用漢字表』外の漢字。

●『常用漢字表』に読みがけない音・訓。

漢字の解説

●漢字の総画数を示す。

●部首は原則として『康熙字典』による。

シヤク 10画 部首「弓」
弱 教育小2 1 2 8 6 9
弱 旧字

弱 弱 弱 弱 弱 弱
よわまる・よわめる

弱 弱 弱 弱 弱 弱

シヤチ 19画 部首「魚」
鮠 和製漢字 1 8 2 4 7
イルカ科の哺乳類。類。ハクジラ類の一つ。世界の海洋に分布。雄は特に背ひれが大きくなり、体長約9m。雌は小さい。数頭、数十頭

シユ 10画 部首「木」
株 教育小6 1 9 8 4
シユ・チユ
樹 木

シユ 10画 部首「夕」
殊 常用 1 2 8 7 6
シユ
訓 こと

株 株 株 株 株 株
①かぶ。木のきりかぶ。くいぜ。枯株・守株。
②草木を数えるのに用いる語。用例(助数)海棠「一」。

株を削り根を掘る(しゆをけず) 根こそぎにする。すべて取り除く。

シユ 10画 部首「酉」
酒 教育小3 1 2 8 8 2
シユ
訓 酒

シユ 11画 部首「女」
姫 教育小3 1 5 3 2 3
シユ・ソウ
訓 酒

酒 酒 酒 酒 酒 酒
さけ。さか。さかもり。「飲酒(けんしゆ)・禁酒・洋酒」。「酒宴・酒家・酒豪・酒量」用例(接尾的)合成「一」。

シユ 11画 部首「女」
娶 教育小3 1 5 3 2 4
シユ
訓 星

①よめ。にいづま。思子の妻。②「姫婿」は、星座の名。↓ソウ(姫)

シユ 11画 部首「女」
娶 教育小3 1 5 3 2 4
シユ
訓 星

シユ 12画 部首「頁」
須 人名用 1 3 1 6 0
シユ・ス
訓 須

①ひげ。あごひげ。②もとめる。③まつ。まち。うける。④もちい。⑤すべからく。べし。ぜひ。しなければならぬ。必須「須要」⑥

シユ 12画 部首「血」
衆 教育小6 1 2 9 1 6
シユ・シユ
訓 衆

シユ 11画 部首「心」
眾 異体字 1 2 9 1 6
シユ
訓 衆

シユ 14画 部首「木」
種 教育小4 1 2 8 7 9
シユ・シユウ
訓 種

種 種 種 種 種 種
①たね。②植物のたね。種子④もと。原因。⑤うえる。草木をうえる。たねをまく。播種

シユ 7画 部首「寸」
寿 常用 1 2 8 8 7
シユ・シユウ・シ
訓 寿

①ひさしい。ながく存在する。②とし。いのち。「喜寿・長寿・米寿」。「寿命(じゆみん)」。③〇〇年の一を保つ。④ながいき。「寿福」④

シユ 8画 部首「口」
呪 2 8 8 6
シユ・シユ・シ
訓 呪

①のろい。のろい。「呪咀」②まじな。まじない。仏教では不思議な力をもつ秘密のこと。ばいこと。しゅ。真言。陀羅尼。呪術。呪文

シユ 12画 部首「无」
就 教育小6 1 2 9 0 2
シユ・シユ
訓 就

①なす。なる。なしとける。「成就(じゆじゆ)」。↓シユウ

シユ 12画 部首「无」
就 教育小6 1 2 9 0 2
シユ・シユ
訓 就

①なす。なる。なしとける。「成就(じゆじゆ)」。↓シユウ

●教育漢字の学年配当。常用漢字、人名用漢字、和製漢字の別。

●日本工業規格「情報交換用漢字符号」の区点コード。

●日本工業規格「情報交換用漢字符号」補助漢字の区点コード。

●旧字、異体字。

●教育漢字には、筆順。

●音と訓の太字は、『常用漢字表』にあるもの。

本文記述

●それぞれの意味で用いる熟語例。

●単独で語として使われる例。

●↓の先の見出しに筆順があることを示す。

●↓の先の別の見出しにも、同じ漢字項目があることを示す。

日本語に強くなる……この辞典の活用法1

現代語を中心にした解説

●現代仮名遣いに基づく表音による仮名見出し。

こころざわしい【心・忙しい】(形) 気がせいて落ちつかない。気が気でない。restless
こころぞえ【心添え】 注意を与えること。為れを思っで忠告すること。
こころだて【心立て】 心のあり方。気だて。気性。disposition

●現代仮名遣いの表記基準に準じた見出し語の表記。

語) 我慢できないほどいい。たまらなくよい。この上なくよい。really good 副例) 一味だ。こたえる【こたえる】 対える【下一目】 ①応じる。反応する。報いる。reward 副例) 期待に。応援に。②強くひびく。強く感じとる。さわる。tell 副例) 寒さが身に。忠告が身に。

●正確に、分かりやすく、簡潔に、ことばを定義。

ちちんと(副) ①かたい物が軽くぶつかり合って立てる音。bang 副例) ゆで卵を。割る。②かたく固まるさま。hard ③他人の言動がしゃくに障るさま。かちんと。get on one's nerves 副例) 頭に。くる。こちんまり(副・サ変目) 小さくまとまって感じのよささま。cozy 副例) した家。

●現代日常語としての慣用例を、豊富に採録。実用性に富んだ用例集。

こつこつ【元・元・屹・屹】(副) 地道に、着実に物事をするさま。steady 副例) と努力する。こつこつ【目・目・サ変目】 ①かたくて、角張っているさま。rigid 副例) した岩。②ぶこつで親しみにくさま。また、うるおいのなさま。stiff, inflexible 副例) した人間。

●現代仮名遣いの送り仮名の付け方にのっとった表示。(一)の中にあるものは、省くこともできる。

こねどり【捏ね取り】 もちつきで、側にいてこねかえすこと。人。こねまわす【捏ね回す】 (五他) ①こねかえす。knead ②さんさんいじくりまわす。tamp 副例) さんさん。してかえって変にする。

豊富なことば情報

●語義に基づく表記の違いを、見出し語を分けて表示。

はやまる【早まる】 (五目) ①時間が早くなる。Be advanced 副例) 開会が。予定が。②時間をかけないで、またはよく考えないで判断する。be hasty 副例) 判断を。ってはいけない。はやまる【速まる】 (五目) 動き・速度が速くなる。speed up 副例) 回転が。

●同義語の表示。ことばを豊かに、自由自在に使いこなすために。

さがりめ【下がり目】 (四圓) 上がり目。①目尻の下がった目。垂れ目。eyes slanting downward ②物価などの下がり始め。falling ③勢などが衰えかけたとき。落ち目。declining trend さがる【盛る】 (五自) ①勢いがさかんになる。たけなわになる。be prosperous ②はやる。さがる【座礁・坐礁】 (名・サ変目) 船が暗礁に乗り上げて動かなくなる。grounding 副例) 座州。困難。さく【錯視】 視覚における錯覚のことで、ある物体の実際の形・大小・色彩などが、ちがつたものや、ゆがんだ形として知覚されること。optical illusion 副例) 幾何学的錯視。↓

●対義語・比較語の表示。ことばの知識を広げ、理解を深めるために。

さかすき【杯・盃・盞】 酒を注いで飲むための容器。古くは土器。のち木器・漆器。陶器・金属器・ガラス器と発達。副例) 一個。盞。一組。杯を返す (おかし) ①返杯する。offer a cup in return ②子分が、親分との縁を切る。副例) 杯を貫かう。

●ものの数え方(助数詞)を採録。必要なことばには、単位を表す語(円・メートルなど)も表示。

さいふ【財布】 金銭を入れ携行する袋物の総称。札入れ小銭入れがまぐちなどがある。江戸時代貨幣経済が発達し、使われた布製の財布入れが語源。purse, wallet 財布の口が堅い (さいふのくちがたい) けちで、なかなか金を出さない。縮まり屋である。economical 財布の口を締める (さいふのくちをきめる) 支出を切り詰め

●故事・成句を多数収録。先人の含蓄に富んだことば遣いに触れ、より豊かな言語生活のために。

さいふ【財布】 金銭を入れ携行する袋物の総称。札入れ小銭入れがまぐちなどがある。江戸時代貨幣経済が発達し、使われた布製の財布入れが語源。purse, wallet 財布の口が堅い (さいふのくちがたい) けちで、なかなか金を出さない。縮まり屋である。economical 財布の口を締める (さいふのくちをきめる) 支出を切り詰め

国際化の時代に向けて……この辞典の活用方法 2

外来語の表記

● 原語のつづりをローマ字で表記。

シアン【cyan】①青酸カリなどシアン化合物の通称。cyanide ②化学式(CN)・特異臭のある無色の気体・可燃性があり、猛毒。ジアン。青素。シアノーゲン。Cyanogen ③一価のシアン基(C≡Nのつ)。シアン【cyan】緑がかった鮮やかな青色。イエロー・マゼンタとともに、減法混色の三原色の

● 人名・地名などは、原地音に従い、ローマ字で表記。

シアトル【Seattle】アメリカ北西部、ワシントン州にある商工業都市。太平洋岸にあり貿易港として発展。鉄道・航空など交通上の要地。航空機生産で知られるボーイング社の工場がある。人口五一・六万(1970)。シアヌーク【Norodom Sihanouk】(1901-)カンボジアのノロドム王家の王族・政治家。一

● アルファベットの略であるものは、見出し語のあとに、原つづりを表示。

シー・アイ・エー【CIA】(Central Intelligence Agencyの略)アメリカ中央情報局。他国の国家機密探索・情報収集や政治工作にあたる大統領の直属機関。一九四七年国家安全保障法により設置。シー・エム・イー・エー【CMEA】(Council for Mutual Economic Assistanceの略)→

● 中国語・朝鮮語など漢字があらるものは、本見出しとして示し、そのあとに表音をローマ字で表記。

シツァン【西藏】(Xizang)チベット・シツァン・チチン【シツァン自治区・西蔵自治区】(Xizang)中国西南部、ヒマラヤ山脈・崑崙山脈などに囲まれたチベット高原上の自治区。中心城市はラサ(拉薩)。北部では家畜の遊牧、南部では農耕が行われており、ラサを中心に近代工業も発達。人口二二

● 外国の地名・機関名・団体名などは、その正称をローマ字で表記。

ジェノサイド【genocide】人種差別や宗教上の偏見による皆殺し。ジェノサイド・じょうやく【ジェノサイド条約】(Genocide Convention)ナチスによるユダヤ人虐殺のような集団殺害を防止し、その処罰を定めた条約。一九四八年国連総会で採択。

● 作品名などは、原題をローマ字で表記。

しばれたフロメテウス【縛られたフロメテウス】(原題 Prometheus Bound)アイスキュロス作の悲劇。神々の火を盗んで人類に与えたため、ゼウスから過酷な刑を科せられたフロメテウスを軸に、神界と人類の発展を壮麗雄大に描く。

● 国名には、外務省資料による英語の正式名称を表示。

ジブチ【Djibouti】(Republic of Djibouti)アフリカ東部、紅海の入りにある共和国。首都ジブチ。もとフランス植民地。一九七七年独立。砂漠や半砂漠が国土の大部分を占め、遊牧民が多い。面積二・三万km²。人口五六・五万(1970)。正称ジブチ共和国。

本文中の英語

● ことばの語義ごとに英語を表示。簡便な和英辞典としても使える。日本語の微妙な違いも分かる。

じ・へん【事変】①天災・地震などの変わったできごと。accident ②警察力で鎮圧できない騒乱。disturbance ③宣戦布告のない国家間の戦闘行為。trouble; conflict

● 専門用語にも英語。ビジネスなどの現場でも、十分に活用できる。

しほうさいいはん【司法裁判】民事および刑事についての裁判。judicial trial ④国行政裁判。しほうさいいはん【脂肪細胞】内部に多量の脂肪を含む細胞。組織間に散在することもあるが、毛細血管に沿って脂肪組織を形成することが多し。fat-cell

● 和製英語にも、それに相当する英語表現があるものは表示。

シャープ・ペンシル【和製語。一八三七年、アメリカでエバーシャープの名で発売されたことから名前のくり出し。鉛筆。機械鉛筆。ノック式や回転式がある。mechanical pencil】シャーベット【sherbet】果汁にシロップやリキュールなどを加え、凍らせた冷菓。食品衛